

# 教育研究業績書

2020年05月26日

所属：薬学科

資格：教授

氏名：大川 恭子

研究分野	研究内容のキーワード
臨床薬学・医療薬学・社会薬学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医薬品の製剤等に関わるユニバーサルデザインの研究と臨床応用</li> <li>・災害時医療における薬剤師の関わり</li> <li>・地域包括ケアシステムにおける薬局、薬剤師の役割</li> </ul>
学位	最終学歴
薬科学	武庫川女子大学薬学部 大学院 博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要

<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 臨床薬学基本実習 I・II	2019年4月～現在	長年の実務経験を活かし多角的に指導。特に臨床現場でのタイムリーな話題も提供しつつ、自身の施設においても薬学実習生を受け入れた経験より実務実習に行った際の心構えなども合わせて指導。導入講義では「災害時医療と薬剤師」「在宅医療・介護への参画」「地域におけるチーム医療」を担当。
2. ヒューマニズム論 I	2019年4月～現在	医療人としての心構えや薬剤師としての社会で果たす役割を伝え、授業の中で順番に学生の意見を聞き、双方向の授業を行った。
3. 地域医療における薬剤師	2019年4月～現在	地域医療において現在、最前線で活躍されておられる先生方をお招きし、オムニバス形式で授業を展開。それぞれの講師から病院や薬局における地域での薬剤師の役割を具体的にわかりやすく紹介。ちょうど実務実習に行く学年とあり、現場と授業での話を照らし合わせて将来の自分自身の薬剤師としての在り方も考える機会とする。
4. 薬剤師の生涯教育	2019年4月～現在	世界各国の薬剤師の現状や社会保障・医療保障制度を知った上で、日本におけるこれからの薬剤師の生涯教育の在り方を学生と共にSGDなどを交え考える。
5. 薬剤師のリスクマネジメント	2019年4月～現在	共同担当において、主に、薬局におけるリスクマネジメントについて具体例を挙げて学生と共に様々な事例を考えた。特に「災害立国」ともいえる我が国において災害時のリスクマネジメントの在り方について「カードゲーム」方式の授業を取り入れ、全員で考え、理解した。
6. 早期体験学習 I	2019年4月(2011～担当)～現在	将来「薬剤師」を目指す薬学に入学したばかりの学生が、実社会における薬剤師の活躍の場を見聞また体験することにより、しっかりとした将来展望を描き、目標をもって6年間の学びに繋げられるように実施・指導。体験学習後、SGDを実施し学年全体で内容を共有し、冊子作成を成果物とした。 (製薬企業・研究所・保健所・医療福祉施設・介護施設・血液センター・病院・薬局等に協力を得た)

<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 『スタンダード薬学シリーズII 7』 ー臨床薬学ー	2018年6月25日 【東京化学同人】	〈チーム医療および地域の保健・医療・福祉への参画〉 ・薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠し、内容を学生にわかりやすく盛り込んだ教科書。 →執筆担当：第10章「災害医療と薬剤師」 ・災害医療概説 ・災害時における地域医療体制と薬剤師の役割 ・防災計画に基づく事業継続計画(BCP)
2. 『薬学生のための病院・薬局実務実習の手引き』	2016年3月31日【じほう】	・薬学生の実務実習モデル・コアカリキュラムに準拠しその方略(LS)ごとに要点や資料が整理されている。学生のテキストとしてまた指導薬剤師の実習テキストとして活用しやすい内容。 →担当執筆：「かかりつけ薬局・薬剤師」 「一般用医薬品」 「副作用情報の管理と報告」

<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 日本災害医療薬剤師学会 理事(研修担当)として	2018年4月～現在	・「日本災害医療薬剤師」の認定養成研修を企画・実行講師としても講演・指導。
2. 日本災害医学会 薬剤師研修コースのインストラクターとして災害支援薬剤師の養成	2015年～	・日本災害医学会の薬剤師研修コース(PhDLS)を兵庫県内で開催。研修企画と運営、災害支援薬剤師養成コースのインストラクターとして指導にあたっている。
3. 武庫川女子大学薬学部 非常勤講師として	2011年4月～2018年3月	・プレファーマシー I 実習指導 ・4回生を対象とするプレファーマシー実習導入講義「災害時医療と薬剤師」他(2018.4～) ・早期体験学習 I
4. OSCE評価者として	2010年12月～現在	・OSCE評価者としての実績を積む。
5. 薬学生実務実習指導教員として	2010年10月より2018年3月	・実務実習指導薬剤師の経験をもとに兵庫県下、各薬科大学において実務実習指導教員を務めた。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
6. 職能団体での実績 日本薬剤師会 兵庫県薬剤師会 地域薬剤師会	1990年7月～2019年3月	◎日本薬剤師会 : 代議員 (1996～2016) : 各委員会委員歴任 (分業対策本部委員・介護保険対策委員 ・生涯教育委員・災害対策委員等) ◎兵庫県薬剤師会: 常務理事・理事 (1992～2018) ◎神戸市薬剤師会: 常務理事・理事 (1998～2014) ◎長田区薬剤師会: 会長・副会長・理事 (2002～2014)
7. 実務家教員として	1982年より現在まで	・調剤実務経験35年以上。 →薬局・病院等での調剤経験を活かし 平成2年に自ら保険薬局を開局(現在に至る) ・自身の薬局においても薬学実習生を受け入れ、 指導薬剤師として指導実績を積んだ。
<b>4 その他</b>		
1. 神戸須磨東高校にて	2015年2月10日	・1年生 総合学習特別授業を実施。 →「薬剤師の仕事と社会的役割について」
2. 学校薬剤師(神戸市) 小学校(1校)・認定こども園(2園)	2002年8月～2019年3月31日	・担当小学校において生徒を対象に薬物乱用防止関係の 授業を実施。公衆衛生の指導・検査の実施。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 日本災害医療薬剤師学会認定 災害医療支援薬剤師	2019年～現在	
2. 認定スポーツファーマシスト	2019年～現在	
3. 日本災害医学会 災害医療認定薬剤師	2017年～現在	
4. JPEC(日本薬剤師研修センター)認定薬剤師	2017年～現在	
5. 認知症サポーター(兵庫県)	2017年～現在	
6. PhDLS(日本災害医学会)研修指導インストラクター	2015年～現在	
7. JPALSクリニカルリーダー レベル5	2015年～現在	
8. 認定実務実習指導薬剤師	2010年～現在	
9. 兵庫県薬剤師会 禁煙指導認定薬剤師	2005年～現在	
10. 薬剤師免許(保険薬剤師 資格も取得)	1982年取得	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 兵庫県災害・救急医療システム協議会委員	2014年6月～2018年6月	兵庫県薬剤師会を代表して様々な意見を提言した。
2. 臨床現場での指導実績をもとに大学で実務指導	2010年～	・兵庫県下 4薬科大学
3. 介護認定審査会委員(神戸市)	2009年4月～2020年3月	基礎職の薬剤師・介護支援専門員の資格をベースに介護 認定審査会に出席。 認定審査にあたった。
4. 兵庫県国保連合会介護給付部会歴任	2002年～2006年	
5. 「兵庫県災害医療センター」設立メンバー(兵庫県 薬剤師会代表)	2002年～2006年	
6. 医療経済研究機構における共同研究発表	1996年3月	『21世紀に期待される薬剤師の役割』-薬剤費への提言-
<b>4 その他</b>		
1. ・平成30年度 薬事功労者【厚生労働大臣表彰】	2018年10月	
2. ・兵庫県学校薬剤師会【会長表彰】	2013年8月	
3. ・兵庫県薬事功労者表彰【知事表彰】	2012年10月	
4. ・兵庫県自治賞	2011年12月	
5. ・兵庫県薬事協会【会長表彰】	1995年7月	
6. 薬剤師会を通じて社会貢献(執行役員歴20年以上)		【日本薬剤師会】: 代議員・各種委員歴任 【兵庫県薬剤師会】: 常務理事・理事等歴任(20年) (薬学教育・地域医療・医療保険・災害-公衆衛生対策等) 【神戸市長田区薬剤師会・神戸市薬剤師会】会長他歴任

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. スタンダード薬学シリーズⅡ7『 臨床薬学』Ⅲ: チーム医療及び地 域の保健・医療・福祉への参画	共	2018年6月	東京化学同人	・薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠し、 学習者主体の新しいスタイルの書。 災害時の薬剤師支援の経験をもとに「薬剤師の 災害時の支援活動」についてわかりやすく解説し キーワード等の説明や「災害医療に関する医療従 事者としての共通認識」の重要性、国の様々な 災害医療体制や法的整備についても触れた。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
2. 服薬指導ハンドブック	共	1994年3月	医薬ジャーナル社	<ul style="list-style-type: none"> <li>執筆担当：第10章 「災害医療と薬剤師」</li> <li>・ 常用処方薬の服薬指導に役立つ薬効別服薬指導の要点をまとめたもの。</li> <li>・ 患者が納得のいく服薬指導を行うためには、患者が理解しやすいように適切に伝える必要がある。病院外来窓口や薬局に置いて活用しやすい1冊である。</li> <li>・ 執筆担当：産婦人科用剤・点眼薬・外用剤</li> <li>・ 共著者：奥村勝彦・田部和久・岩城 徹他</li> </ul>
<b>2 学位論文</b>				
1. The surveillance of adherence for hormone replacement therapy in female	単	2019年02月	武庫川女子大学	
<b>3 学術論文</b>				
1. New Diet Therapy Vol.32 No.3	単	2016年03月	日本臨床栄養協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>『「健康サポート薬局」に求められる機能と薬剤師の関わり』：査読付き</li> <li>・ 「健康サポート薬局」創設の経緯と国の制度上の位置づけや概要について詳しく解説。また、現行制度の中で期待される部分や地域包括ケアシステムの中での運用について検討。今後、地域の中で「薬局・薬剤師」がどのような役割を果たすべきかをその具体例とともに提言。</li> </ul>
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 『保険診療と審査を考えるフォーラム～震災への対応と将来に向けて～』パネリスト		2017年9月	社会保険診療報酬支払基金フォーラム (兵庫県 神戸市)	『保険診療と審査を考えるフォーラム』パネリスト
2. 『研修・訓練から実災害へ～どのように実災害対応へ繋げるか～』：シンポジスト		2017年2月	日本災害医療薬剤師学会 学術大会 (静岡県)	シンポジストとして登壇。兵庫県薬剤師会での災害支援体制について、また、「災害支援薬剤師」・「災害薬事コーディネーター」の養成に関わる研修・訓練について紹介した。医療チームとしての支援が中心となるため、平時からの連携体制の構築の重要性について述べた。
3. 『薬学生と考える薬剤師の災害支援』 座長		2011年8月	近畿薬剤師学術大会 (兵庫県神戸市)	「阪神・淡路大震災と東日本大震災から学ぶ災害医療」鶴飼 卓氏の基調講演後、兵庫県下5大学の代表薬学生とSGDを実施。各学生代表者による発表をもって今後のあり方について共に議論。
<b>2. 学会発表</b>				
1. 第25回 日本災害医学会 「薬学教育における災害教育の現状と課題」	単	2020年2月	日本災害医学会 学術集会 (兵庫県神戸市)	「薬学教育における災害教育の現状と課題」 ・モデル・コアカリキュラムにおける薬剤師の災害時支援への関わりについて大学や実現場での教育の在り方について現状から今後に向けての課題を提言。
2. 「Investigation of pharmacist activities and usefulness of Mobile Pharmacy in disaster relief」	単	2018年10月	APCDM in JAPAN (国際学会) 一兵庫県神戸市	日本における近年の災害発生状況とともに日本の薬剤師の災害支援への関わりの変遷を伝え、災害現場でのモバイルファーマシーの有用性についてその特徴とともに伝えた。また、医療者の今後の災害支援への取り組みについても提言した。
3. 「災害時におけるモバイルファーマシーの有用性の検討」	共	2017年2月	日本災害医学会 学術集会 (愛知県)	2016.4月の熊本地震では、薬剤師支援活動において大分県薬剤師会所属のMP(モバイルファーマシー)が、我々薬剤師の活動拠点として活躍した。被災地で医療支援活動を行う者にとっても、被災者にとっても、ランドマーク的な役割も果たし注目を浴びた。これらの経験から支援活動にあたった薬剤師・医師等にアンケート調査を行うとともに今後へ向けての課題や方向性の指針を探り、その結果について発表した。
4. 「災害薬事コーディネーターの養成」	共	2017年2月	日本災害医療薬剤師学会 (岐阜県)	兵庫県薬剤師会において「災害薬事コーディネーター」創設にみけて、その役割や考え方、養成の方向性について紹介。全国での取組状況調査結果や今後の課題について提起。
5. 「大規模災害時 民間船舶を活用した内閣府の医療支援実証」における薬剤師活動の検証	共	2017年10月	日本薬剤師会 学術大会 (東京)	間近に迫る大規模地震(南海トラフ地震など)を想定し、内閣府等を中心に国の防災対策が進められている。兵庫県においては阪神・淡路大震災の経験をもとに早くから船舶を活用した災害支援のあり方について検討を重ねていた。今回、国の大規模な実証訓練が兵庫県で行われることとなり、我々薬剤師がその中のチームの一員として、医薬品の供給はじめ被災者支援にどのようにかかわるべきか？検証を行い、その結果の報告と今後への提言を行った。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
6. 「災害時のチーム医療について考える」	共	2016年10月	日本薬剤師会 学術大会 (愛知県)	2016.4月に発生した熊本地震においては最も被災の激しかった「益城町」において我々薬剤師会ちむは、「JMAT兵庫」医療チームの一員として他の医療従事者とともに支援活動を行った。全国から支援に訪れた様々な職種の支援者とともに初対面で瞬時にチームビルトを行い、共に活動する重要性和平時からの取り組み・心構えについて実体験をもとに報告・提言。
7. 「災害時の糖尿病患者への薬剤師支援」	共	2016年10月	くすりと糖尿病学会 (兵庫県)	2016年4月の熊本地震災害支援の経験から被災地における糖尿病患者への医療支援のあり方について事例報告と今後へ向けての対応・準備に関して提起。
8. 「災害医療における支援薬剤師の養成」一兵庫県薬剤師会の取り組み	共	2016年10月	日本薬剤師会 学術大会 (愛知県)	兵庫県薬剤師会において「災害支援薬剤師」制度を創設し、その養成に務めた経緯と研修・訓練体制などを発表するとともに今後の取組みについて示した
9. 「災害に備えて一地域コミュニティへの関わり」	単	2013年9月	日本薬剤師会 学術大会 (大阪府)	災害時、要援護者に関する神戸市の条例に合わせた地域三師会・地元協議会での取組みについて、これまでの事例や経験をまとめて紹介・提言。
10. 「災害時 神戸市要援護者支援に関する三師会の取り組み」		2010年6月	日本プライマリケア学会 近畿地方会 (神戸市)	神戸市条例に基づく地域三師会の災害時の連携のあり方について、これまでの事例や実績をまとめて紹介・今後への提言を行った。
11. 「介護保険 居宅療養管理指導の手引き」	単	2005年10月	日本薬剤師会 学術大会 (広島県)	薬剤師が介護保険下で行う居宅療養管理指導(在宅患者訪問薬剤管理指導)の実施推進のため、より多くの薬局・薬剤師が取り組みやすくするために、活動の開始にあたっての申請の手続きや書類作成、活用法などをわかりやすくまとめた手引きを作成し、紹介した。
12. 「薬剤師がつくる薬物治療」 一薬・薬・学連携一	共	2004年9月	日本医療薬学会 (千葉県)	新薬情報入手に関する病院・薬局等でのアンケート調査を実施するとともに検証を行い、これを基盤にして今後へ向けての連携のあり方について発表。
13. 「神戸薬学ネットワークの取り組み」	共	2004年9月	日本医療薬学会 (千葉県)	病院薬剤師・薬局薬剤師・大学(薬学部)教員が連携して勉強会などをともに企画し相互の情報交換・連携体制の基盤をつくる目的で「神戸薬学ネットワーク」を立ち上げた。その目的と活動について紹介した。
<b>3. 総説</b>				
1. 『21世紀に期待される薬剤師の役割』一薬剤費への提言一	共	1996年3月	医療経済研究機構	水野 睦郎・山本 信夫 他
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 地域活動報告	単	2019年11月	第4回地域連携協議会 (武庫川女子大学 教育研究社会連携推進室 主催)	地域連携から学ぶ これからの 一薬剤師のあるべき姿一 薬学部のある浜甲子園地域で新しい時代の新しい街づくりが進む中、大学が地域と連携して薬学生や薬剤師と共に住民の健康づくりや健康増進に寄与することにより、これからの一薬剤師の地域におけるあるべき姿一を考え、地域貢献を目指す。
2. 調査報告		2006年1月	医療薬学会誌	『保険薬局及び病院・診療所における 学生実習の実態調査』
3. 学術雑誌掲載		2004年6月	調剤と情報 6月号	『介護保険 居宅療養管理指導の手引き』 を作成して
4. STUDY REPORT		2001年9月	総合ケア11月号	特集『在宅高齢者とくすり』 一くすりの飲み合わせ一
5. 研究発表		1996年3月	医療経済研究機構	『21世紀に期待される薬剤師の役割』 一薬剤費への提言一
6. 会報掲載		1995年12月	兵庫県薬剤師会 兵庫界12月号	『阪神・淡路大震災の記録』
7. 学術雑誌掲載		1995年12月	ファルマシア	『薬剤師災害ボランティアを薬学教育にどう活かすか』 一阪神・淡路大震災の経験から一
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
1. 文部科学省「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)(2019-2024年)」		2020年1月～ 3月	関西圏女子大学ダイバーシティ推進協議会 「異分野交流共同研究スタートアップ支援」	武庫川女子大学薬学部と地域薬剤師会・地域行政が協力体制を組み、地域における高齢者健康モデルの考案にあたり、連携・協力いただける企業との共同研究の推進準備を実施。
2. 2019年度『地域を対象とした連携推進支援事業』		2019年6月～ 2020.3月	『地域連携から学ぶ これからの一薬剤師のある べき姿一』	薬学部のある浜甲子園地域で新しい時代の新しい街づくりが進む中、大学が地域と連携して薬学生や地域の薬剤師と共に住民の健康づくりや健康増進に寄与することにより、これからの一薬剤師の地域におけるあるべき姿一を考え、地域貢献を目指す目的で実施

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年4月～現在 理事	日本災害医療薬剤師学会 日本災害医学会 日本薬学会 医療経済研究機構 HuMA（災害人道医療支援） 日本医療薬学会 日本骨粗鬆症学会